

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決 算 特 別 委 員 会 産 業 建 設 分 科 会		会 議 場 所 第 2 委 員 会 室
			担 当 職 員 池 永
日 時	平成29年9月21日(木曜日)	開 議	午 前 10 時 00 分
		閉 議	午 後 3 時 49 分
出席委員	◎奥村、○石野、並河、藤本、木曾、西口（湊議長）（欠席：明田委員）		
出席理事者	【産業観光部】内田部長、柏尾農政担当部長 [ものづくり産業課]吉村課長、篠部副課長 [観光戦略課]松本課長 [農林振興課]内藤課長 [農地整備課]上田課長、並河国営事業担当課長 [農業委員会事務局]大西事務局長、吉田事務局次長 【上下水道部】西田部長、畑事業担当部長 [総務・経営課]西田課長、人見水道経営係長、木村下水道経営係長 [お客様サービス課]柴田課長、三宅副課長 [水道課]松永副課長 [下水道課]阿久根課長、川勝副課長、西田年谷浄化センター所長		
出席事務局	片岡事務局長、池永主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

10:00

- 1 開会（委員長あいさつ）
- 2 事務局日程説明
- 3 付託議案審査（説明～質疑）

[上下水道部入室]

- ・上下水道部長あいさつ

◎第15号議案 平成28年度亀岡市上水道事業会計決算認定

[説明]

- ・総務・経営課長説明

10:39

[質疑]

<並河委員>

滞納により水道が止められた等のケースはあるのか。対応はどうしているのか。

<お客様サービス課長>

平成28年度に一時給水停止したのは132件である。納付されれば開栓の手続きをとっている。

<並河委員>

福祉の所管かもしれないが、ひとり暮らしの高齢者に水道料金の補助がある。件数と金額は。

<お客様サービス課長>

把握していない。

<石野副委員長>

P 1 7、給水戸数が1 4 0戸増加している一方で、年間配水量が減少しているのはどういうことか。

<総務・経営課長>

市の人口減と合わせ、節水型の家庭用機器の普及や、節水意識の高まり等により、給水量は全国的に減少している。戸数増は、核家族の増加により、新しい家を購入され、家ごと節水型にされたりする。本市に限らない全国的な傾向である。

<西口委員>

配水管の耐用年数は。

<上下水道部事業担当部長>

資産として減価償却の関係で法定化されているのは4 0年であるが、実質はそれ以上の耐用年数であると業界や各自治体における事業者は考えている。現在、耐震管が使われているものは6 0～8 0年の耐用年数を設定していこうと見直しを行っている。ちょうど4 0年経つものがここ数年で多くあるため、現在見直しを行っており、そのあたりでまた考え方を明確にしていきたい。

<西口委員>

耐震管の普及率は。

<上下水道部事業担当部長>

上水道は全配水延長が5 4 0キロメートルあり、耐震管は1 6 パーセント程度である。平成2 8年度末において、8 万7 千メートルが耐震管で整備されている。重要な管路を基幹管路と位置付けているが、それは総延長が5 万9 千メートルあり、うち2 万6 千メートルが耐震化されており、耐震化率は4 5 パーセントである。

<西口委員>

災害の時に、地域が離れていても万全な体制を取れるように、常にそのことは配慮されたい。有収率は何パーセントか。

<上下水道部事業担当部長>

平成2 7年度は有収率が8 6. 4 パーセントであった。平成2 8年度に漏水調査を行い、地下での漏水を1 4 4 件発見した。それをすべて修繕すると、1 日の配水量が1 5 0 0 立方メートル減少し、平成2 8年度の最終集計では有収率が8 8. 4 パーセントにまで上がった。2 パーセント漏水を抑えたことになる。9 月から修繕を始めたので、約半年間でこのくらい上がったことになり、今後有収率の向上が期待できる。9 0 パーセント以上を目指して、今年も多かった地域を実施していきたい。漏水は毎年復元していくので、復元量の多いところを探していくという考え方を行っている。現在、5 年に1 回亀岡市全域を順番に回っている。平成2 8年度は2 万9 千戸すべてについて、メーターのところで音を聞いて調査した。

<西口委員>

漏水はお金を捨てているようなものである。十分な対応を願う。

<奥村委員長>

今の話はP 2 4、年間配水量9 7 6 万8 千立方メートル、年間給水量8 6 3 万7 千立方メートルの差の話だと考える。この差の約1 1 0 万立方メートルはすべて漏水か。消防が使っているもの等もあるのか。

<上下水道部事業担当部長>

有収率以外に有効率という考え方がある。消防が使用する水や管路洗管のための水、メーターの感度の問題等で、まだ2～3 パーセントは上積みされる。5 パーセントくらいが無駄に捨てている水である。それを今回2 パーセント減らしたということ

である。９５パーセントくらいが最高である。

<奥村委員長>

お金を捨てているようなものなので、検査にお金をかけている。漏水分を金額にしたらどのくらいになるのか。相当な額になるのではないか。

<上下水道部事業担当部長>

給水単価だと１３０円程度になるが、実際に送っている単価では１トンあたり３６円くらいである。漏水調査を行う費用と見合うのが９２～９３パーセントである。１００パーセントを目指しても、お金ばかりつぎ込むことになる。

１０：５２

◎第５１号議案 平成２８年度亀岡市上水道事業会計未処分利益剰余金の処分に ついて

[説明]

・総務・経営課長説明

１０：５５

[質疑なし]

◎第８号議案 平成２８年度亀岡市簡易水道事業特別会計決算認定

[説明]

・所管部課長順次説明（歳出・歳入一括）

１１：０９

[質疑]

<藤本委員>

Ｐ２５８、柚原簡易水道の有収率が低い理由は。

<上下水道部事業担当部長>

柚原簡易水道はかなり工事を行っており、洗管水量がたくさんある。施設規模が１日１００～２００立方メートルと小規模であり、洗管水量が多くなると有収率が悪くなる。漏水が多かったわけではない。

１１：１０

◎第１６号議案 平成２８年度亀岡市下水道事業会計決算認定

[説明]

・総務・経営課長説明（歳出・歳入一括）

１１：３３

[質疑]

<並河委員>

料金の値上げにより赤字から黒字に転換したが、料金を値下げする考えは。

<総務・経営課長>

損益計算書では黒字であるが、平成２６年に会計制度が変わり、減価償却方法が変わった。長期前受金として、過去に受けた補助金を償却額に合わせて収入に計上す

るという、制度変更による黒字である。営業活動等で出た利益ではない。経理上では好転したが、経営は依然として厳しく、料金値下げの状況にはない考える。

<石野副委員長>

P 1 6、水洗化率が94.2パーセントとなっているが、地域によっては本管が入っていてもつなげていないところがある。どのような対応をしているのか。

<お客様サービス課長>

重点区域を定めて戸別訪問を行っている。

<石野副委員長>

地域によっては夏場に異臭の苦情もある。つないでもらえるように尽力されたい。

<西口委員>

P 2 0、年谷浄化センター水処理設備工事その14について、落札率は何パーセントくらいか。

<奥村委員長>

工事の落札率の一覧を資料として提出されたい。

1 1 : 3 8

◎第52号議案 平成28年度亀岡市下水道事業会計未処分利益剰余金の処分について

[説明]

・総務・経営課長説明

1 1 : 3 9

[質疑なし]

◎第10号議案 平成28年度亀岡市地域下水道事業特別会計決算認定

[説明]

・所管課長順次説明（歳出・歳入一括）

1 1 : 4 8

[質疑]

<藤本委員>

事項別明細書P 2 8 5、不納欠損額の説明を。

<お客様サービス課長>

不納欠損額2万2038円は、平成28年度において使用料の収入ができなかった分である。閉栓して5年経った閉栓者の分と、破産免責された人の使用料が歳入として徴収できないため、不納欠損の処理を行ったものである。

<藤本委員>

備考欄の現年度分、滞納繰越分とはどういうことか。

<お客様サービス課長>

現年度分はその年度において使用した人の収入を得た分である。滞納繰越分は、現年で収入できなかった分を過年度分に繰り越しているもので、その分の収入を受けた分である。

[上下水道部退室]

< 休憩 11 : 52 ~ 13 : 00 >

[産業観光部入室]

- ・産業観光部長あいさつ
- ・産業観光部農政担当部長あいさつ

◎第6号議案 平成28年度亀岡市一般会計決算認定（産業観光部所管分）
（2款総務費・6款農林水産業費）

[説明]

- ・所管課長、順次説明（歳出歳入一括）

13 : 58

[質疑]

<藤本委員>

P142、第2カントリーエレベーター廃止の詳細は。

<農林振興課長>

当該エレベーターは大規模なものであり、当時3カ年にわたって設置している。廃止に係り、国・府・市がそれぞれJAに補助金を出しているが、耐用年数の残存部分に係る補助金返還が生じた。国・府・市に返してもらう分を、事業者からまとめて市に返してもらい、その中から市が国・府の補助金の分を返還したものである。

<木曾委員>

P148、カーボンマイナスプロジェクトについて、3大学と提携して取り組んでいる。事業報告書はあるのか。

<農林振興課長>

報告書は出てきている。

<木曾委員>

主な研究の成果を大学ごとに説明されたい。

<産業観光部農政担当部長>

立命館大学は何年か取り組んでいるが、平成28年には河原林のほ場でトラクターが通るより高いところに太陽光を設置し、その下で耕作するという形の研究・実証実験を行っている。

<奥村委員長>

成果はどうか。

<産業観光部農政担当部長>

太陽光については、昨年から作付けをしていて実験中であり、集計はまだである。龍谷大学は、学校とタイアップする中で、カーボンマイナスプロジェクトへの理解を促進するような内容のビデオ教材を作り、実際に学校に入っている。京都学園大学は、炭堆肥を使った野菜の生産として、例えば白菜を作る時に何キロ使うのが作物に適しているのか等、ほ場で実証実験を行っている。成果は持ち合わせていないが、成育の状況の報告をもらっている。

<木曾委員>

成果については後で報告されたい。カーボンマイナスの関係で、他市からも視察にいられているが、その説明資料でもよいので提出されたい。

<奥村委員長>

成果品の概要版はあるか。

<産業観光部農政担当部長>

概要版はないため、主だったページの抜粋になるかもしれないが、それで整理する。

<奥村委員長>

資料を提出願う。

<木曾委員>

P 1 6 0、ペレットストーブはどこに頼んで、どこに設置したのか。

<農林振興課長>

亀岡市森林組合に委託し、市役所 1 階のホール、レストランに降りる階段の横に設置したものである。

<奥村委員長>

まだ稼働していないのか。

<農林振興課長>

寒い時期ではないため、まだ稼働していない。

<木曾委員>

市役所に設置するのに、なぜ委託料を払わねばならないのか。森林組合や若木の家
に設置した方がよかったのではないか。

<農林振興課長>

市民の一番目につくところに設置し、見てもらいたいという思いがあった。普及が
進んでおらず、設置には相応のノウハウが必要なため、森林組合に委託し設置した
ものである。

<奥村委員長>

暖房しながらストーブもつけるということか。

<農林振興課長>

そうである。

<奥村委員長>

委託料には、ストーブ代も入っているのか。

<農林振興課長>

ストーブ本体と、当分のペレット代を含んでの値段である。

<木曾委員>

ペレットの燃料はコンスタントに入手できるのか。市内で作っているのか。

<農林振興課長>

七谷川木材が作っている。供給については問題がない。

<奥村委員長>

ペレットストーブ購入の補助金があったのではないか。

<農林振興課長>

補助金は農林振興課で取り扱っている。

<並河委員>

P 1 5 8、有害鳥獣の被害は中山間地域が多いのか。

<農林振興課長>

山沿いも多いが、猿は最近、篠町など人気の多いところにも出てくる傾向にある。

<西口委員>

P 1 5 6、老朽化したため池の整備に 1 3 5 万円とされているが、ため池として機
能を発揮しているものもあるが、必要でないものも見受けられる。保津町の谷山池
は明治 2 2 年に決壊し、大きな被害をもたらした。防災面を考えた時に、危険なた
め池は対応せねばならない。修繕も必要だが、ため池の効率的な活用を精査し、必

要のないため池は積極的に埋めていくべきではないか。

<農地整備課長>

ため池の機能や受益がなくなっている部分もある。四軒屋田熊池も廃池工事をしている。決壊を防ぐためには、ため池がないほうがよいが、2百何十箇所ため池があるため、用水の関係を精査する中で必要性や緊急性等を確認し、防災・減災事業の中で廃池工事を主眼においた整備ができないかを含め、府にも要望していきたい。引き続き地元とも協議しながら進めていきたい。

<西口委員>

牛松山の愛宕谷川の上に6万立方メートルためる大きな池があり、それが明治22年に決壊した。決壊したら5分で学校まで来る。そんな短時間で来たら、どうしようもない。先日、土地改良区の人がため池を見に行ったところ、底から大きく漏れていた。内側ののり面に石を積んでいたのが割れていた。いまだに危険な箇所だと感じる。危険な箇所は調査を含め、監視体制をきちんととられたい。

<奥村委員長>

当該池の受益面積は。

<農地整備課長>

池には数回行っている。一昨年、災害があった関係で現地にも行った。台風など災害の恐れがある時は事前に水位を下げてくださいよう話をするとともに、ため池の一斉点検として府と一緒に現地確認を行っている。万が一のことはあってはいけないので、地元と一緒に管理に努めていきたい。受益面積は資料がないため、後ほど回答する。

<西口委員>

受益面積は分かるので回答は不要である。大きなエリアではない。横の堤防がえぐられて4～5年前に直してもらった。他にもそういうところがある可能性もある。防災には十分配慮されたい。

<農地整備課長>

地元と協議・調整しながら安全確保に向けて取り組んでいきたい。

<石野副委員長>

P158、有害鳥獣の捕獲数は平成28年度と比べてどうか。成果は上がっているのか。

<農林振興課長>

平成28年度は737頭、平成27年度は729頭、平成26年度は667頭である。

<石野副委員長>

猟友会の会員が減少し、高齢化も進んでいる。補助金等を出しているが、若い人が携わらないと聞く。行政で専従班を作るべきではないか。

<農林振興課長>

新規取得者の4人は、ベテランの猟師に連れて行ってもらい現在訓練中である。狩猟免許を持っている職員もいる。当課でも今年度から「林務・鳥獣対策係」と名称を変更し、1人の職員が、わな免許取得の勉強に取り組んでいる。粛々と取り組みを進めているところである。

<奥村委員長>

地方創生推進交付金のシートの取り組みの成果に、カーボンマイナスのことが書かれていないのはなぜか。

<農林振興課長>

評価シートは行数も限られており、主なものを記載している。他の課の部分もあり、

すべて書き込むと分量が増大する。

<奥村委員長>

アグリフェスタに5千人も参加されたのか。

<農林振興課長>

昨年度と一昨年度、来場者がかなり伸びている。5千人で間違いない。

14 : 28

(11款 災害復旧費)

[説明]

・所管課長、順次説明（歳出歳入一括）

14 : 33

[質疑]

<木曾委員>

P168、明繰現年林業用施設災害復旧費で3路線と言われたが、どの路線か。

<農林振興課長>

①千歳町の七谷線2カ所、②篠町王子の鶉の子谷線2カ所、③篠町王子の中の谷線1カ所である。

14 : 34

<休憩 14 : 34～14 : 45>

・産業観光部長あいさつ

◎第6号議案 平成28年度亀岡市一般会計決算認定（産業観光部所管分）
（2款総務費・5款労働費・7款商工費）

[説明]

・所管課長、順次説明（歳出歳入一括）

15 : 08

[質疑]

<木曾委員>

事項別明細書P53、市有地占有料について、京阪メガソーラーとユメミファクトリーそれぞれの金額は。

<ものづくり産業課長>

京阪メガソーラー株式会社と京セラTCLソーラー合同会社に貸し付けた分が387万3千円、ユメミファクトリーが216万円である。

<木曾委員>

それぞれの敷地面積は。

<ものづくり産業課長>

ユメミファクトリーが2万1236平方メートル、京阪メガソーラー株式会社が8万9536平方メートルである。

<木曾委員>

平方メートルあたり、どのくらいで計算しているのか。

<ものづくり産業課長>

年間の貸付料の算定は、いずれも固定資産評価額の6パーセントを基準としている。

<奥村委員長>

ユメミファクトリーは国道に近いから評価額が高いということか。

<ものづくり産業課長>

ユメミファクトリーには農地であった部分を貸している。京阪メガソーラーには山林部分を貸している。

<藤本委員>

P165、大河ドラマ誘致活動事業経費について、誘致の見通しは。

<観光戦略課長>

来年度と再来年度はもう決まっている。

<奥村委員長>

見通しについての答弁を。

<観光戦略課長>

大河ドラマ誘致推進協議会は平成23年に設立し、2020年でちょうど10年目である。その時に誘致し、その節目の中で整理していきたいと協議会では話をしているところである。

<西口委員>

P167、森のステーションかめおかについて、日曜日に行っても誰もいなかった。会派の議員が別々に行っているが、客の数が少ない。国の10分の10の補助で取り組んでいるが、この状況で本当によいのか。何か策はあるのか。現状は想定の内なのか。

<観光戦略課長>

平成28年度～30年度の3カ年計画で整備を進めている。10月のプレオープン時には、ムラタの森と一緒に実施し、10月22～23日で2500人を集客した。その後、10月29日から11月27日までの間は土日のみ開館し、344人参加された。その後いったん閉館し、4月22日にリニューアルオープンした。その後、砥石は木曜日から月曜日、チョロギは土日の開館としている。4月22日から8月末時点までで1851人来ていただいている。砥石は1467人である。1日で14～15人入っていることになる。

<西口委員>

最近よく行っているが、行くたび0～1人である。3年後までにどう仕掛けていくのかが大きな課題である。良い取り組みであるが、あまりにも来訪者数が極端である。良い知恵はあるのか。

<産業観光部長>

4月に天然砥石館をオープンしたが、今年度のうちに2階に薬膳レストランをオープンする。また薬草原を整備し、ボードウオークを設けていく。あわせて生涯学習部の方でもロッジを3棟整備する予定である。それらを整備し、総合的な中で集客を見込んでいく考えである。事業は推進途中であることを理解いただきたい。また、天然砥石館の集客は今のところ少ないが、今後はイベントを含めて考えていきたい。蚕を使った絹織三人展の取り組みも行っているが、亀岡の匠や物を集約できる施設として今後充実させていきたい。

<奥村委員長>

部長が森の京都DMO設立推進協議会の幹事をしているのか。

<産業観光部長>

平成28年度はそうであった。平成29年度は地元の人が一般社団法人森の京都地域振興社の取締役をしている。

<木曾委員>

湯の花温泉等、一連の観光の流れに組み込まないと、あの場所だけでは無理である。ロッジを3棟整備するくらいでは話にならない。レストランも道路から見えない。何か仕掛けを考えねばならない。トロッコ列車の利用者に必ず立ち寄ってもらい、その後保津川下りにつなげるなど、観光名所と一緒にする仕組み等がない限り無理ではないか。

<産業観光部長>

おっしゃるとおりであり、湯の花温泉に森のステーションの観光パンフを置くとか、ユメミファクトリーは年間10万人ほど集客しているが、ほぼマイカーで来られており、そこにも森のステーションを宣伝するものを置くとか、ユメミファクトリーに来られた人が、亀岡で他にどこか観るところがないか聞かれることも多いようであり、千歳の七福神めぐりや森のステーション、夢コスモス園等、市の中を周遊していただけるような案内をしていく必要がある。逆に森のステーションからも宣伝し、お互いに誘客し、周遊できるような仕組みを考えていきたい。

<木曾委員>

ユメミファクトリーと亀岡市の関係は陰悪な状態ではないのか。友好的な関係を保ち、どちらからも紹介しあえるような、お互いにWIN-WINの関係を持たない限り、発展性はない。もっと考えをオープンにし、透明性をもって、皆に来てもらえるような環境づくりをしなければならない。

<産業観光部長>

ユメミファクトリーとは陰悪ではないと考えている。地元自治会、業者、市が一緒に話をできる場が以前はなかったが、昨年からは地元、京阪メガソーラー、ユメミファクトリー、市が十分協議し、友好的に進めている。他の場所の紹介についても、十分協力していただけたらと考えている。

<藤本委員>

ここが森のステーションの1つの目玉になってくると考える。三大観光ともコラボし、観光情報誌やホームページ、ふるさと納税も使って薬膳レストランをアピールすべきである。和歌山のじゃばらのように、ひとつ当たれば大きい。うまく火をつけられるかは企画の持って行き方である。しっかりと宣伝体制を取られたい。

<観光戦略課長>

PR不足の部分はある。今日から東京ビッグサイトでツーリズムEXPOジャパンという旅行社との商談会があり、そこに森の京都として行っているが、この事業を十分宣伝するようにしたい。今後は旅行社にツアー造成をしていただき、DMOと連携しながら誘客を図りたい。10月には、「羽鳥慎一モーニングショー」というテレビで砥石を取り上げていただく。放送を見ていただくような広報も強化していきたい。テレビや雑誌・新聞に取り上げていただいているところで発信できるので、そういうところにも力を入れていきたい。

<西口委員>

3年間あるといっても間際になってからでは遅い。今から仕掛けねばならない。良い事業なので積極的にアピールされたい。

<奥村委員長>

地方創生加速化交付金の評価シートがA評価となっているが、自分のところでこのような評価をされていてよいのか。

<観光戦略課長>

外部の方に入っていたいただいた評価委員会の中で評価されたものである。当課がA評価としたものではない。

<木曾委員>

P143、人権福祉センターで、府と共催で若者の就職支援セミナー等を行ったとのことであるが、どのような形で行ったのか。

<ものづくり産業課長>

ガレリアかめおかや人権福祉センター、保津文化センター・東部文化センターで開催した。それぞれの開催場所に市職員やジョブパークの専門カウンセラー等が出向いて実施したものである。

<木曾委員>

主催は亀岡市か、それともNPO法人に委託したのか。

<ものづくり産業課長>

主催は人権啓発雇用促進協議会である。その中に府や市等関係団体が入っている。

<並河委員>

P162、中小企業者資金借入保証料助成と利子補給について、前年度と比較して実績はどうか。また、どういう業種が利用されているのか。

<ものづくり産業課長>

保証料助成は、平成26年度は125件で413万7146円、平成27年度は126件で460万7683円、平成28年度は155件で553万2785円となっている。利子補給は、平成26年度が216件で925万9269円、平成27年度が192件で723万7885円、平成28年度が251件で1043万3790円である。いずれも前年度から伸びている。業種間の偏りはあまりないと考え

<藤本委員>

P143、京都丹波地域への移住定住促進について、就職マッチング相談者数172人と就業体験者数21人というのは亀岡市独自の数字なのか、2市1町の数字なのか。

<奥村委員長>

あとの1市1町の負担金や主管がどこなのかも含めて答弁されたい。

<ものづくり産業課長>

事業の開催状況等については、地方創生加速化交付金シートが一番下に詳細を記載しているので参考にされたい。この事業については、2市1町で京都丹波就職支援協議会を構成し、それぞれが役割分担しながら各会場での開催等を実施してきたところである。

<奥村委員長>

地方創生加速化交付金シートのパンフレットの数と主要施策報告書のパンフレットの数が違うのはなぜか。

<ものづくり産業課長>

全部で1万5千部作成し、亀岡市分として4千部を配布したものである。あとの1万1千部は南丹市と京丹波町の分である。地域の中で配布するだけではなく、大阪市・南丹市などいろいろなところで開催しているイベントでも配布している。

<奥村委員長>

他の1市1町の負担金は。亀岡市のみが負担金を出したのか。

<ものづくり産業課長>

その部分は承知していない。

<奥村委員長>

主管は亀岡市か。

<ものづくり産業課長>

それぞれの会場分を分担して行ったものである。

<産業観光部長>

そもそも南丹市が単独で実施しようとしていたが、京都丹波で一緒に取り組んだ方がよいという府の指導もあり、京丹波町と亀岡市が加わったものである。亀岡市以外の負担金の数字は持っていないが、調べて報告する。

<奥村委員長>

報告願う。

<木曾委員>

P166、七福神のハイキングコースの整備が亀岡市における森の京都の取り組みのメインであるように言っていたが、ハイキングコースの整備の実績は。

<観光戦略課長>

委託料については、市内の7カ所のハイキングコースと丹波7福神のコースになっている。7カ所というのは保津峡、明智越え、牛松山、行者山、独鈷抛山、半国山、法貴谷で、それぞれのハイキングコースがある。その中で観光協会に委託し、観光協会が草刈りや倒木の点検・作業を行っている。森の京都の関係では、京都府に丹波七福神めぐりコースをPRしていただいていたが、ハイキングコースの整備事業については、草刈り等、回ってもらえるような環境整備を実施したものである。

<木曾委員>

地方創生加速化交付金の評価シートの「森の京都」DMO地域活性化推進事業の「取組内容」に千歳町自治会に関する事業が掲載されているが、宣伝してもらっただけなのか、それとも整備も行ってもらったのか。

<観光戦略課長>

整備はDMOでは行っていない。「千歳はでっかい宝船」というイベント等を実施いただき、ハイキングコースを発信していただいたということである。

<奥村委員長>

観光施設の整備の中で、地方創生推進交付金やみらい戦略一括交付金等を使っているが、今までは単費で、湯の花温泉の入湯税等で実施していた。こういうお金があるからとりあえず使っていこうということをしていたら、2～3年後大変なことになるのではないかな。

<産業観光部長>

財源の確保という部分については、みらい戦略一括交付金等、財政課がほぼ持っており、それを事業に当てはめるという流れできている。みらい戦略一括交付金がいままで続くかということもあるが、財源確保は財政課が一生懸命行っている。事業の趣旨に合う事業があった場合、財政課にあてはめてもらっている。将来的な心配は言われるとおりであるが、市全体の課題だと考える。

[産業観光部退室]

15：44

事務事業評価打ち合わせ

<奥村委員長>

明日からの事務事業評価に入る前に、実施方法等について委員間で打ち合わせを行う。事務局より実施方法等について説明を。

<事務局主任>

(事務事業評価の流れ及び評価シートの説明)

<奥村委員長>

今回は商工も観光も事業が大きいので、通常の決算審査と同じように順番に事業を

説明いただき、質疑を行うこととする。

～散会 15 : 49